

# 令和4年度学校評価 学校関係者評価報告書

茨城県結城看護専門学校

## 1 評価委員構成

評価委員…9名 内訳：実習施設関係者4名、教育機関3名、卒業生1名、行政機関1名

## 2 学校の自己評価に対する客観的評価

### 1) 評価結果

評価基準	評価人数
評価は妥当である	5人 (55%)
評価は概ね妥当である (課題が少しある)	4人 (44%)
評価はやや妥当である (課題がやや多め)	—
評価は妥当とは言えない (課題が多数ある)	—

### 2) 各委員からの意見

- ・評価点は高く、ほぼ達成できている。達成できた要因と対応が具体的かつ簡潔に明示されると良い。
- ・過去5年間の評価をみると、今年度の評価が最も高く、大変良い。
- ・基礎データに基づき具体的に評価ができてきている。コロナ禍による対応で努力した点は評価に加味して良いのではないかと。
- ・学校や教員一人ひとりが努力されており、評価は概ね妥当である。
- ・病院側と連携して、新人教員の受け入れ態勢の整備に取り組んでほしい。
- ・教職員の協働意欲や新人教員のサポート体制、連携に関する対策は、難しい課題である。
- ・評価項目が164項目→115項目に減らし、項目は網羅されている。減らしたことによる不都合や不十分な点に留意して、次年度の評価と合わせて細項目の検証が必要。
- ・前年度から下がった細項目について、優先度を考え、重点的に目標設定するなど、長期的に取り組むと良い。
- ・現在の看護教育において、「4-21-b、4-21-c」は、「4 (適切)」にはなりにくいのが現状である。教育に携わる者としてより良い授業・指導のために考える時間は無限であり、教育者として常にアンテナを高くすることは当然のことと考える。個人の能力の違いによって、要する準備時間の違いもあので、「4-23 教育方法の工夫・研究 (学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じている)」に含まれる内容として、この項目を削除してはどうか。
- ・新、旧カリキュラム混在した中での対応のご苦労がある中で、無理のない範囲で来年度の課題に対応していただきたい。

### 3) 改善点・今後期待する点

- ①削除した項目による影響の検証と低下した細項目への取り組み
- ②新人教員のサポート体制の強化と連携

## 3 重点目標の自己評価に対する客観的評価

### 1) 評価結果

評価基準	評価人数
評価は妥当である	5人 (55%)
評価は概ね妥当である (課題が少しある)	4人 (44%)
評価はやや妥当である (課題がやや多め)	—
評価は妥当とは言えない (課題が多数ある)	—

### 2) 各委員からの意見

- ・重点目標5つすべてで評価ポイントが3.5以上であり、カリキュラム改正後であるが重点目標はほぼ達成されている。今後は、結果分析方法の探求が必要。今年度に評価が下がった項目を含め、貴学として外せない重点項目の根拠が示されると良い。

- ・**重点目標1**の取り組みとして、学生の学習継続への支援に、心理カウンセラーの連携は良い取り組みである。また、学生相談は学生にとって必要な場であるため、さらなる活用ができるよう工夫が必要。
- ・**重点目標2**の学習支援のポイントが、教員・学生側も3.3~3.4と他に比べて低い。互いに課題を感じていると考えられるため、次年度に向けた改善を期待したい。
- ・看護師国家試験連続100%合格への取り組みは、先生方も緊張していると察する。継続に向けて支援を期待する。
- ・**重点目標4** 進路指導では、本人が十分納得して選び、就職後のサポートも必要と感じる。(就職先⇄学校の連携)
- ・地域の就業者確保に大きく貢献している。今後も継続して期待したい。
- ・**重点目標5**で、ストレスチェックで高ストレス該当者の割合が多い(昨年に比べて3人増加)結果については、学生へのきめ細やかな指導の実践と勤務(超過・持ち帰り業務)時間のバランスをしっかりと議論し調整が必要。その上で、今後の改善を期待したい。
- ・教職員の働きやすい環境への調整は、様々な課題があるが、努力していることが伺える。学生へのきめ細やかな対応と相反するところもあり、難しいところではあるが、負担軽減を図りつつ、学生への丁寧な指導は継続してほしい。

### 3) 改善点・今後期待する点

- ① 重点目標の設定の根拠を示されたい
- ② 学習継続へのきめ細やかな指導の実践と教員の勤務のバランスを議論し調整すること
- ③ 職員のワークライフバランス推進を含め、高ストレスチェック該当者への組織的支援

## 4 5つの取組み評価についての評価

<ご意見>

### 1) 学生の学校生活満足度調査

- ・キャリア形成に関して低い評価というのが気になる。調査時期の影響もあるのではないかと。はっきりとしたビジョンでなくても、看護観や理想の看護師像を持つことも大切と思う。
- ・見えてきた課題に対して建設的に捉え、改善に向けて取り組む学校側の姿勢を評価したい。
- ・学生時代を振り返り、学校を評価するという視点から、卒業生への満足度調査の実施も検討を期待したい。

### 2) 公開授業・授業参観・学校行事・財団研修等のアンケート

- ・公開授業は臨床における教育検討に役立っている。今後も参加型・見学型公開授業を継続してほしい。
- ・今年度、評価委員として公開授業に参加し、積極的に学生が発言(質問やそれに応じる力)に感心した。
- ・学生に関わる他の組織の職員や保護等に公開していくことは、学生の緊張感をもって授業に臨めると考える。
- ・公開授業が教育力向上につながっているか、講義と演習との関連性の効果を評価できると、実習までの学習プロセスを教育評価できると感じる。
- ・少ない教員数の中で、実習施設及び保護者と教育連携体制を強化している努力は素晴らしい。
- ・コロナ禍において、感染対策等で学校の負担もいつに増して重かったと考えられるが、縮小したとはいえ、学校行事を行えたことは良かった。
- ・開校年度から、財団研修を継続して30回目まで継続できたことは、素晴らしい。県西地域の看護専門職の現任教育への貢献度は、高い評価に値する。継続は力なり。看護職員の看護力向上に向けて、今後も期待したい。

## 5 その他のご意見など

- ・全体的に、現代の学生に合わせた学習環境を整えていると感じる。課題についても解決・改善に向けて丁寧かつ前向きに取り組んでいる姿勢が伝わる。
- ・今後も病院と学校が協力しながら学生を支援していける関係でいたい。

以上